

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 28 年 10 月 30 日	
所属部局・職	霊長類研究所社会生態分科・修士課程学生
氏名	石塚真太郎

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
沖縄県西表島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
西表実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 28 年 10 月 24 日 ~ 平成 28 年 10 月 28 日 (5 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
琉球大学
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の西表実習は西表島の生態系を学ぶこと、近年普及しつつあるドローンの使用を体験することを目的に行われた。私は以前から沖縄の生態系に関心があり、非常に楽しみに思って参加した。内容は以下の通りであった。
24日：西表島入島 25日：トレッキング、ドローン実習 26日：ドローン実習、カヤック実習、トレッキング 27日：シュノーケリング、ドローン実習 28日：離島
島内の山やマングローブ林でのトレッキングでは数種類の爬虫類や、多様な植物を観察することができた。幸運にも船上からリュウキュウイノシシも観察することもできた。私はトレッキングの中で、西表島には極めて多様な植物が存在しているにもかかわらず、哺乳類の種類が非常に少ないことに疑問を持った。西表島は哺乳類の祖先を含まずに大陸から分離してしまったのかもしれないと思ったが、哺乳類の化石は見ついているとのことだった。何らかの理由で島内の過去の哺乳類の多くは滅びてしまったのだろう。西表島では島の面積が小さいため、大型哺乳類が大きなサイズの個体群を維持することはできないと考えられる。個体群サイズが小さいために哺乳類の島内個体群が絶滅してしまうことが比較的容易に起こるのかもしれない。奄美大島や与那国島など気候が似ている沖縄周辺の島国の動物相と比較し、なぜ各島それぞれの動物相が形成されたかを知ることができればよいと思う。
ドローンの操作は私にとって初めての体験であった。ハンドル操作自体はそれほど難しくなかったが、GPSなどの情報の設定が非常に複雑で細かった。それらを理解するためには結構な学習が必要だと思う。また、バッテリーの耐久時間もかなり短かった。さらに、飛行音も大きく、動物が頭上で飛んでいるドローンに馴れるのは時間がかかる気もした。このような弱点をもったドローンを自分の霊長類研究に応用するとしたら、フェノロジーなどの植生調査だろう。自分で空上を自由に動かせるドローンでシステムティックに対象の写真を撮ってあげれば、人間が簡単にアクセスできないような高い樹上の植生データを、比較的長期で集め続けることができるのではないだろうか。もしこれらが可能なら、生態学研究の上で重要なデータになるだろう。
川でのカヤック実習では、カヤックを用いて行うアマゾンや東南アジアでの霊長類調査を想像した。毎朝調査の前に自分でカヤックを漕ぐのはかなり体力を消耗すると思う。実際それらの調査地で研究されている研究者はアシスタントを雇い、漕いでもらっているのだろう。熱帯雨林の大河の上から霊長類を探すという経験は一度してみたい。
シュノーケリングでは西表の海の様々な生物を観察できた。地上性哺乳類と比べて非常に多様性に富む海洋生物を観察するのは純粋に楽しく、新たに知ることばかりであった。一方でこれまであまり海に親しんだことのなかった私にとって長時間泳ぎ続けることやサンゴの上を歩くことは結構大変であった。熱帯雨林での森歩きであろうが海の中での泳ぎであろうがフィールドワークには、フィールドでの「慣れ」が必要なのだろう。
西表島の自然を満喫でき、全体として楽しい実習であった。私はこれまで好きな動物ばかりに注目し、その周りの環境や人々のことにはあまり関心が向いていなかったが、今回の実習では西表島の自然全体への関

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

心を維持できたように思う。自分が好きな場所であれば、その場所の自然全体を理解しようというモチベーションが生まれるのかもしれない。また別の機会に奄美大島や与那国島に行き、より日本の亜熱帯についての理解を深めたい。



琉球大学亜熱帯研究センター



ハイビスカスの花



マングローブ林



ドローン

6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS リーディング大学院プログラムの支援を受けて遂行できました。PWS プログラム、琉球大学の皆様、および参加者の皆様に感謝申し上げます。